

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11812

研究課題名（和文）ラーマ6世・7世時代の資料に見るオリエンタリズムとしての日本表象の研究

研究課題名（英文）Study on the Image of Japan as Orientalism in the Era of King Rama VI and King Rama VII

研究代表者

平松 秀樹（HIRAMATSU, Hideki）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携准教授

研究者番号：20808828

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：ラーマ6世およびラーマ7世期（20世紀前半）に発表された文字資料、映像資料を対象として、タイから日本へ向けられた言説・表象に着目し、個々の作品の分析を行なった。当時のタイの日本認識が、西洋のオリエンタリズムと同種のものか、あるいはタイ独自のバイアスが加味されているのかを検証し、タイから日本へ向けられた「オリエンタリズム」の内実を解明した。それにより文化的側面からみた日=タイの関係性の実相を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀前半のタイの活字・映像資料および民間伝承にみる日本表象の詳細を明らかにした。サムライ、蝶々夫人、日本兵等々の具体的な日本イメージ研究は従来のタイ文化研究にはない新機軸であり、同時に世界のなかの日本表象研究としても既存の研究に新しい座標軸を提供する意義がある。新資料として、ラーマ6世自身による文字資料や京都の和菓子店訪問の際の写真を入手した。戦時中のタイ南部（ナコン・シータンマラート、トラン、ラノーン）において洞窟に隠れた日本兵に関する住民側資料を発掘し、山田長政に関する民間歌を蒐集した。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted through researches on literary works and visual documents from the era of King Rama VI and King Rama VII (the first half of 20th century) focusing on discourses and representations of Japan from Thai perspective. By examining whether Japanese images at the time in Thailand was directly connected to the Western Orientalism or whether there was a Thai-specific perception applied, this study clarified the intrinsic quality of the 'Orientalism' toward Japan in Thailand. It thereby highlighted the Japanese-Siamese relationship from cultural perspectives.

研究分野：比較文学・比較文化 タイ地域研究

キーワード：タイ文学 タイ映画 日本表象 オリエンタリズム ジャポニスム ラーマ6世 ラーマ7世 タイ・フィルムアーカイブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

日・タイ関係は2017年に修好130周年記念を迎え、益々の文化・学术交流が期待されている。日本とタイが正式に修好関係を結んだ1887年の頃は両国が西洋列強の植民支配に脅かされ、早急に近代化を迫られた時代だった。同じアジアの国々の中でも西洋の植民地にならずに短期間で近代化を成し遂げた日本に、当時のタイ国王ラーマ5世は興味を示していた。明治政府により派遣された工部省役人大鳥圭介がラーマ5世に謁見した際、国王はとくに日本の鉄道と国体に興味を示したことが記録されている。

ラーマ6世は若年時にイギリスに留学し、のちオックスフォード大学に学んだ。また幼少の頃から文学的才能を示し多くの西洋および東洋の文学作品を翻訳・翻案した。ギルバートの『ミカド』も翻訳・翻案している。ジュネーブで寸劇(My Friend Jarlet)を演じた際には、芸者のお辞儀の「仮装」も披露している。ラーマ6世の王子時代の留学先のイギリスは、ジャポニスム・ブームであり、『ミカド』や『ゲイシャ』などのサヴォイ・オペラが花盛りであり、王子は*O-hanasan*という日本人女性を主人公にした小説も英語で書いている。

同時期に、王族のナラティープ・プラパンボンにより『蝶々夫人』の翻案『サーオ・クルアファー』が描かれた。北タイを舞台としてチェンマイの女性とバンコクからきた士官の話に趣旨替えされている。こうした日本人イメージおよび日本文化の受容が当時のタイにおいてもなされていたことは、従来の研究では十分に調査されていない。

20世紀前半のラーマ6世およびラーマ7世時代は西洋経由の日本イメージがタイで強く反映されている時代である。本研究では、1900年よりの文学テキスト、雑誌・新聞記事、映像作品を調査し、そこにみられる日本に関する言説および表象を調べる。当時のタイにおいて、社会一般に西洋文化が浸透していくなかで、日本(人)イメージはどのように捉えられたのかを、文化の側面から探り明らかにする。

## 2. 研究の目的

本研究では、タイ文学テキスト、雑誌・新聞等の同時代資料、映画やドキュメンタリーをはじめとする映像資料を題材として、ラーマ6世・7世時代を中心としたタイにおける20世紀前半の日本表象を明らかにすることを目的とする。サムライ、蝶々夫人等々の日本イメージに関して、具体的な文学作品や映画作品を対象にタイから日本へ向けられた言説・表象に着目し分析した本研究は、文化的側面からみた日=タイの関係性の実相を明らかにしていくものであり、世界のなかの日本イメージの一例としてこの分野の研究の発展に貢献するものである。

西洋はアジアに対して異国趣味を抱き、日本は明治期以来「熱帯」としてのタイへオリエンタルな眼差しを向けてきた。しかしタイもまた、それら視線を受けるだけでなく、西洋経由のジャポニスム的な眼差しを日本に向けていた。本研究の目的は、20世紀前半のタイの活字・映像資料に見られる日本に関する言説や表象の分析を通して、タイから日本へ向けられた「オリエンタリズム」の内実を明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

現地資料調査を以下のように実施して、入手した資料をもとに20世紀前半のタイにおける日本表象を分析した。並行してジャポニスム、オリエンタリズム研究の専門家との意見交換を行な

った。

初年度は、チュラロンコーン大学附属図書館 (Thai Information Center) において、20 世紀前半のタイと日本との関係に触れた論文調査を実施した。第 2 年度は、タイ国立図書館、チュラロンコーン大学附属図書館、タマサート大学附属図書館において、日本に関係する言説・表象の観点からタイの文学テキスト (小説・短編) および雑誌・新聞記事の調査を実施した。最終年度は、渡航制限のために第 3 年度、第 4 年度に実施できなかった海外資料調査を実施し、タイ・フィルムアーカイブにおいて日本やジャポニスムと関係するタイの映像 (映画、ドキュメンタリー作品) 調査、およびチュラロンコーン大学附属図書館においてその映像と関係した新聞・雑誌記事を調査した。

#### 4. 研究成果

日本及び海外において、以下のような論文発表および口頭発表を行った。

論文としては、「タイ映画『パッド・ジーニャス 危険な天才たち』とカンニング：ヒロインは聖女か悪女か」(『結末の向こう側：混成アジア映画研究 2021』(京都大学東南アジア地域研究研究所) CIRAS Discussion Paper 107、2022)、 「タイのラーマヤナ「ラーマキエン」の現代的展開：チャイヨー・スタジオ製作 映画を中心にして」(『現代東南アジアにおけるラーマヤナ演劇』めこん 2022) “The Modern Development of the Ramakian, the Thai Ramayana” in *Ramayana Theater in Southeast Asia*. Jenny Stanford. Singapore: 2022. 39-62. “Comical Thevada and Feminine Ogre: Innovative Characters Reflecting Modern Thai” in *TWELVE SISTERS: A Shared Heritage in Cambodia, Laos, and Thailand*. Thailand P.E.N. Center. Bangkok: 2020. 68-73.等を執筆した

また、海外学会 “Global Network for Gender Studies in Asia” (バンコクサマーセミナー「国際新世代ワークショップ」2019)、国内特別講義「20 世紀のタイ映画・文学にみる日本表象」(北九州市立大学文学部 文化と表象 2019)、海外シンポジウム “The International Symposium on Japanese studies in Thailand 2018” (タイ国日本研究国際シンポジウム 2018) にて口頭発表を行った。

その他、現在単行本を準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 平松秀樹	4. 巻 CIRAS Discussion Paper 107
2. 論文標題 タイ映画『バッド・ジーニアス 危険な天才たち』とカンニング ヒロインは聖女か悪女か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『結末の向こう側：混成アジア映画研究2021』（京都大学東南アジア地域研究研究所）	6. 最初と最後の頁 32-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平松秀樹	4. 巻 CIRAS Discussion Paper 100
2. 論文標題 境界を越えて アノーチャ・スウィチャーゴーンボン監督The Lineをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 越境する災い：混成アジア映画研究2020	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平松秀樹	4. 巻 CIRAS Discussion Paper 82
2. 論文標題 トムヤンティ『クーカム』（メナムの残照）再考 映画・テレビドラマ版とともに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『正義と忠誠：混成アジア映画研究2019』（京都大学東南アジア地域研究研究所）混成アジア映画研究2019	6. 最初と最後の頁 56 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平松秀樹	4. 巻 CIRAS Discussion Paper 82
2. 論文標題 「天使」はタイには必要ないか？日本の原作小説『カラフル』とともに：タイ映画『Homestay』（2018） 覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山本博之編著『正義と忠誠：混成アジア映画研究2018』（京都大学東南アジア地域研究研究所）	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 平松秀樹
2. 発表標題 タイ映画にみるLGBTの諸相
3. 学会等名 "Global Network for Gender Studies in Asia"（国際新世代ワークショップ）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松秀樹
2. 発表標題 20世紀のタイ映画・文学にみる日本表象
3. 学会等名 北九州市立大学文学部 文化と表象（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松秀樹
2. 発表標題 タイ民話「12人姉妹」と現代メディアでの展開 日本民話における共通モチーフとともに
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018（The International Symposium on Japanese studies in Thailand 2018）（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 平松秀樹（共著） 福岡まどか編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 めこん	5. 総ページ数 248
3. 書名 現代東南アジアにおけるラーマーヤナ演劇	

1. 著者名 平松秀樹（共著） 石坂健治、夏目深雪編著、国際交流基金アジアセンター編集協力	4. 発行年 2019年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 192
3. 書名 躍動する東南アジア映画 多文化・越境・連帯	

1. 著者名 Hideki HIRAMATSU（共著） Madoka FUKUOKA編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Jenny Stanford Publishing	5. 総ページ数 258
3. 書名 Ramayana Theater in Contemporary Southeast Asia	

1. 著者名 Hideki HIRAMATSU（共著） Hiroyuki YAMAMOTO編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Thailand P.E.N. Center	5. 総ページ数 99
3. 書名 TWELVE SISTERS: A Shared Heritage in Cambodia, Laos, and Thailand	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------